

## モーツァルト巡礼ーその 14

K.518 水谷康男

K390 は、ソプラノのためのリート「希望に寄せて」です。

K391 は、同じくリート「孤独に寄せて」で、バス／バリトンのために作曲されました。

K392 は、同じくソプラノのためのリート「光輝への感謝」で、これら3曲はともに1780年の「ヘルメスの詩 小さな3編」の3曲です。

K393 は、ソルフェージュ で、妻コンスタンツェの発声練習のために書かれた声楽の練習曲全10曲で、伴奏付きが3曲、無伴奏が7曲です。このCD全集には収録されていませんが、オルガン伴奏やピアノ伴奏版の演奏を聴くことができ、そのとても美しいヴォカリーズを楽しめます。

K394 は、ピアノのための プレリュードとフーガ ハ長調 です。1782年4月に作曲されたもので、モーツァルトには数少ないピアノの対位法的作品です。モーツァルトがバッハ、ヘンデルの作品を借りてコンスタンツェに聴かせたところ、そのフーガに魅せられて、モーツァルトにもこのような作品を書けと所望して作られ、さらに頭に浮かんだプレリュードを付け加えて完成させたといわれています。演奏時間10分程の曲です。

K395 は、同じくピアノのための カプリッチョ ハ長調 です。1778年7月にパリで作曲されたといわれています。即興風に展開される3つの部分(第1部:アレグレット、第2部:レシタティーフ、第3部:アレグロ・アッサイの「カプリッチョ」)よりなる、5分近い佳曲です。

K396 は、幻想曲 ハ短調 です。結婚したばかりの新妻コンスタンツェのためのヴァイオリン・ソナタとして、1782年8月にスケッチを書いたままのものを、シュタットラーが書き足してピアノ曲として出版されたものです。即興するような幻想曲ですが、典型的なソナタ形式で書かれた、演奏時間10分程の作品です。

K397 も、幻想曲 ニ短調 です。作曲時期はウィーン時代の初めと思われていますが、正確な年は不明です。しかし、音楽は最も広く親しまれている豊かな幻想と叙情的な歌謡性を持った傑作で、様々な録音に恵まれております。演奏時間は5分程ですので、しばし、次から次へと続く演奏を聴きながら、これぞまさに天才モーツァルトが人類にもたらしてくれた傑作と感激しています。また、演奏によっては最後の部分に追加があったりして(例えば、内田光子の演奏CD)、その違いだけでも楽しめます。

K398 は、パイジェロの「主よ、汝に幸いあれ」の主題による6つの変奏曲 です。1783年3月にウィーンで作曲されました。パイジェロのオペラ「うぬぼれた哲学者たち」の第1幕第8曲のアリアを主題にしています。

K399 は、組曲 ハ長調 で、1782年にウィーンで作曲された鍵盤楽器のための作品です。Ⅰ:序曲、Ⅱ:アルマンド、Ⅲ:クーラント の3曲よりなる10分程のモーツァルトにしては珍しいバロック的な作品です。



ランゲ 1782年制作 結婚した頃のコンスタンツェ



K400 は、ソナタ断章 変ロ長調 アレグロ です。1781 年ウィーンで作曲された鍵盤楽器のための作品です。ゾフィーとコンスタンツェがらみで作曲されたとみなされ、第 90 小節まではモーツァルトの自稿で、再現部以降の 57 小節はシュタットラーによって補充されたものです。

K401 は、フーガ ト短調 で、1782 年春にウィーンで作曲されました。厳格なフーガの形式の習作的作品です。しかも最後の 8 小節は、シュタットラーが追加して出版されたといわれています。

K402 から K404 の 3 曲は、いずれもヴァイオリン・ソナタで、  
K402 は 第 37 番 イ長調、K403 は 第 38 番 ハ長調、K404 は、第 39 番 ハ長調です。いずれも 1782 年に結婚して新家庭を持った直後に、新妻コンスタンツェのために書かれたものです。

K402 は、2 楽章よりなり I : アンダンテ・マ・ウン・ポコ・アダージョ、II : アレグロ・モデラートですが、第 2 楽章は、未完成で、シュタットラーが、補足完結して出版されました。演奏時間 11 分ほどです。

K403 は、3 楽章よりなり、I : アレブロ・モデラート、II : アンダンテ、III : アレグレットですが、前曲同様、第 3 楽章は、未完成で、シュタットラーが、補足完結して出版されました。演奏時間 13 分ほどです。

K404 は、未完成のままの短い 2 楽章で、ソナタとはしないで、アンダンテとアレグレット あるいは、ソナチネハ長調 としている録音もあります。I : アンダンテ、II : アレグレット、演奏時間は 3 分半程で、演奏自体は、それほど難しくはないので、アマチュアのための小品として価値があります。

K405 は、弦楽四重奏のための、5 つのフーガ で、バッハの平均律クラヴィア曲集 第 2 巻の第 1 番、第 7 番、第 9 番、第 8 番、第 5 番の 5 曲のプレリュードを割愛して、フーガの部分を弦楽四重奏のために編曲したものです。1782 年の作とされており、併せて 9 分の小品集です。

K406 は、弦楽五重奏曲 ハ短調 で、有名な 管楽八重奏のためのセレナーデ K388 を 弦楽五重奏のために編曲したもので、原曲同様 I : アレグロ、II : アンダンテ、III : メヌエット、IV : アレグロの 4 楽章よりなり、演奏 25 分程の曲です。傑作の別角度からの展開に感激しています。

K407 は、ホルン五重奏曲 変ホ長調 です。ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ 2 本、チェロという編成で、I : アレグロ、II : アンダンテ、III : アレグロ の 3 楽章よりなり、演奏時間 17 分の傑作です。1782 年の末にウィーンで、後述の 4 曲のホルン協奏曲と同じく友人のホルン奏者ロイトゲープのために作曲されたものです。

K408 は、3 つの行進曲 です。いずれも 1782 年ウィーンで作曲されました。第 1 曲 ハ長調、第 2 曲 ニ長調、第 3 曲 ハ長調 でいずれも軽快な作品で、Ob・Fg・Hr・Tp 各 2 本、ティンパニ、Vn I & II、Va、Vc・Cb という楽器編成の、いずれも演奏時間数分の佳曲です。

K409 は、交響曲のメヌエット として作曲されたもので、楽器編成も 前曲同様それなりの規模で、1782 年 5 月 26 日に 交響曲第 34 番 ハ長調 の第 3 楽章に加えて演奏されたといわれています。

K410 は、管楽三重奏 のための アダージョ で、バセットホルン 2 本とファゴットで演奏される小品です。

K411も、管楽(木管五重奏)のための アダージョ で、クラリネット2本、バセットホルン3本で演奏されます。前曲と同じく フリーメーソンの儀式のために作曲されたと思われます。

K412は、ホルン協奏曲 第1番 ニ長調 です。モーツァルトは、1782年から1787年にかけて ウィーンで、4曲のホルン協奏曲を ホルンの名手 ロイトゲープ のために作曲していますが、これはその最初の作品です。管弦楽は、Ob・Fg各2本と Vn I & II、Va、Vc・Cb という楽器編成で、この曲だけは全2楽章(I:アレグロ、II:ロンド・アレグロ)よりなる8分程の佳曲です。

K413は、ピアノ協奏曲 第11番 ヘ長調 です。1782年秋から1783年冬にかけてウィーンで、続く K414 ピアノ協奏曲 第12番 イ長調、K415 ピアノ協奏曲 第13番 ハ長調 との一連の三部作の協奏曲を予約演奏会で頒布して、完成しました。

K413は、I:アレグロ、II:ラルゲット、III:テンポ・ディ・メヌエット の3楽章よりなり、Ob・Fg・Hr各2本、Vn2部、Va、Vc・Cb という編成で、演奏時間23分の作品です。

K414は、ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 です。実際に作られたのは、前述のK413の前で、1782年10月ごろに、モーツァルトがウィーンに落ち着いてからの最初のピアノ協奏曲です。I:アレグロ、II:アンダンテ、III:アレグレット の3楽章よりなる軽快な作品です。演奏時間24分の作品で、管弦楽は、Ob・Hr各2本、Vn2部、Va、Vc・Cb という編成です。

K415は、ピアノ協奏曲 第13番 ハ長調 です。この3作のピアノ協奏曲中では、当時一番評判がよいものでした。管弦楽は Ob・Fg・Hr・Tp各2本、ティンパニ、Vn2部、Va、Vc・Cb というこの3作中では一番大きな編成で、輝かしさも一段と増した傑作です。I:アレグロ、II:アンダンテ、III:アレグロの3楽章よりなり、演奏時間26分です。

K416は、レシタティーフとアリア「我が熱愛の希望よ」と「あ、君にはこの苦しみがわかるまい」で、1783年1月、妻コンスタンツェの姉アロイジア・ランゲ夫人のために ソプラノ独唱用に作曲、彼女が初演で歌っています。Ob・Fg・Hr各2本とVn二部、Va、Vc・Cbの伴奏で歌われる、9分程の作品です。



コンスタンツェの姉アロイジア・ランゲ夫人

K417は、ホルン協奏曲 第2番 変ロ長調 です。管弦楽は、Ob・Hr各2本と Vn I & II、Va、Vc・Cb という楽器編成で、1783年5月に第1番と同じく友人のホルン奏者ロイトゲープのために作曲されました。I:アレグロ・マエストーソ、II:アンダンテ、III:ロンドの三つの楽章よりなる、演奏時間13分の作品です。

K418からK420は、1783年6月に、アロイジア・ランゲ夫人(ソプラノ)のためのアリアと、ヴァレンティン・アダムベルガー(テノール)のためのアリアで、いずれもアンフォッシェ(1727~1797)のオペラ「厚かましい好奇」の一部のアリアをこの3つのアリアでさしかえたものです。

K418は、アリア「あなたに明かしたい、お、神よ」

K419は、アリア「いえ、いえ、あなたには無理なこと」

K420は、アリア(ロンド)「あわれと思ひ問わないで」

K421 は、弦楽四重奏曲 第 15 番 ニ短調 です。この時期では文句なしの傑作で、哀愁に満ちた第 1 楽章の第 1 主題から、その音楽の大きな深淵さに、魂を奪われます。Ⅰ：アレグロ、Ⅱ：アンダンテ、Ⅲ：メヌエット、Ⅳ：アレグロ・マ・ノン・トロポ(シチリアーノ風主題による変奏曲) からなる 30 分程の大作です。

K422 は、未完のオペラブッファ「カイロの鷺鳥」です。ウィーンでは、イタリア語のオペラが再度もてはやされる気運が高まり、1783 年夏から作曲に取り掛かったものの、台本も追いつかず第 1 幕も完成しないまま中止されてしまいました。後年補筆しての上演は行われているものの、いずれも成功せず、この CD 全集にも収録されておりません。

K423 と K424 はいずれもヴィオラとヴァイオリンのための 弦楽二重奏曲 ト長調 と 変ロ長調 で、1783 年のウィーンからザルツブルクへ里帰りしていた夏から秋に作曲されたものです。

K423 は、Ⅰ：アレグロ、Ⅱ：アダージョ、Ⅲ：ロンド・アレグロ(演奏時間 16 分)、

K424 は、Ⅰ：アダージョ～アレグロ、Ⅱ：アンダンテ・デ・カンタービレ、Ⅲ：アンダンテ・グラツィオーソの変奏曲(演奏時間 20 分)

K425 は、既述の交響曲 第 36 番 ハ長調「リンツ」です。

K426 は、2 台のピアノのための フーガ ハ短調 です。1783 年 12 月 29 日完成の 2 台 4 手のピアノのためのフーガ作品で、演奏時間 4 分程の佳品です。K546 弦楽合奏のための アダージョとフーガ のフーガは、まさにこの K426 を編曲したものです。

K427 は、ハ短調 ミサ です。1782 年夏から 1783 年 5 月までの間にウィーンで、作曲されましたが、未完成のままで完結されませんでした。完成されたのは、キリエ、グロリア、サンクトゥス、ベネディクトゥスで、クレドの初めの部分、アニュス・デイについては手も付けられていません。だからといって、完成された部分だけでも、素晴らしい感動をもたらす傑作です。父の反対を押し切って、コンスタンツェと 1752 年 8 月 4 日に結婚して以来、ソプラノ歌手である新妻を伴って故郷ザルツブルクに錦を飾ろうと、この曲に取り組んだのですが、完成しないまま 1783 年 7 月末に故郷に帰り、ソプラノ独唱にはコンスタンツェを交えて、サンクト・ペーター教会で 8 月 23 日のプローベまでこぎつけたのです。楽器編成は、Fl・Ob・Fg・Hr・Tp 各 2 本、Tb 3 本、Tmp、Vn2部、Va、Vc・Cb・Og、独唱 4(Sp2、Tn、Bs)、4 声部の二重合唱という本格的なものであり、全曲完成していたならば、モーツァルトの宗教音楽の代表作となっていたと思います。



Ⅰ：キリエ、Ⅱ：グロリア(グロリア、ラウダムス・テ、グラティアス、ドミネ、クイトリス、クオニウム、イエズス・クリスト、クム・サンクト・スピルト)、Ⅲ：クレド(クレド、エ・インカルナタス \* 未完成)、Ⅳ：グロリア(サンクトゥス、ホゼンナ、ベネディクトゥス)よりなりますが、未完成部分もあることから、演奏順も色々あるようです。

K428 は、弦楽四重奏曲 第 16 番 変ホ長調 です。1783 年 6 月から 7 月の作 とみなされています。ハイドンセットの第 4 曲(実際には第 3 曲)である。その前後の名曲に埋もれがちですが、決して侮れない充実した名作と思います。Ⅰ：アレグロ・ノン・トロポ、Ⅱ：アンダンテ・コン・モート、Ⅲ：メヌエット、Ⅳ：アレグロ・ヴィヴァーチェの 4 楽章からなり、演奏時間も 30 分近い大作です。

以降、10 月号に続きます。